

【オリジナルシカ防止柵の開発過程】 夏、雑草の繁茂によりシカに踏込まれて破壊されてしまいましたが紹介します。

市販食害カバーの欠点（カバー上部の食害）を克服すべく、着手しました。

1) アイデアを五條市森林組合の方と検証

大型肉食動物の匂いや糞尿などは、シカの慣れや風雨による持続性の問題で困難であること、物理的な方法のみ有効であることを教わった。

2) テキサスゲート（図1：シカの脚が一度はまると敬遠するグレーチング）に着目 スクリューメッシュの両端を曲げ、簡易テキサスゲートを作成した。

3) 簡易テキサスゲートの設置・暗視カメラの設置

（図2：スクリューメッシュの両端をまげたもの）

既製の食害防止カバーの上部にはエサとしてハイキューブを配置し、斜面上から近付けないよう簡易テキサスゲート設置した。シカの訪れを確かめるため、地面にまき餌した（図3）。

【結果】まき餌はなくなつたが、カバー上部のエサは残っていた。

4) エサ台の変更と簡易テキサスゲートの増設

簡易テキサスゲート内外にそれぞれ低いエサ台を設置し、シカがエサを認識できるか、試した。

【結果】シカが訪れ、簡易テキサスゲート内のエサ台にも、首が届いていた。（図4）

5) 簡易テキサスゲートの増設

エサ台の斜面下にも簡易テキサスゲートを設置した。

（食われず維持できれば、従来の防止カバーは不要）

【結果】

数日は維持できたが、簡易テキサスゲート内に足を入れて、エサを食べた（図5）。シカが簡易テキサスゲートの網に足を入れる際、体幹のブレはなかった。

6) 簡易テキサスゲートの高さを変更

足を上げるだけではまたげないよう、簡易テキサスゲートの高さを2倍に変更した。

【結果】ゲートの下に入ったが、柵上のエサは維持できたため、一定の完成と考えた。

7) 山へ携行に向けた軽量化

20cmピッチのフラワーネットを、簡易テキサスゲートと同じサイズで設置した。

【結果】ネットに体を押し付けて、エサに届いた。

8) ネット範囲の拡大

体を押し付けても、届かないよう1.8m四方から2.5m四方に変更した。

【結果】エサに届かず諦めている様子が撮影できた。

三日後には、ネットの下に入り、ネットの間から首を出してエサを食べていた。（図6）

9) ネットのピッチを変更

シカが首を出せないようネットのピッチを20cmから10cmに小さくした。

【結果】その後は食われず維持できた。

10) 完成！！ 簡易テキサスゲートを「西農式シカ防止柵」と命名！！



（図1）テキサスゲート



（図2）簡易テキサスゲート



（図3）設置とまき餌の様子



（図4）エサ台に届いている様子



（図5）足を入れている様子



（図6）ネットから首を出す様子

秋に設置し、翌年の初夏までは機能した。しかし、夏、雑草の繁茂によって柵の識別が困難となつたことによってか、誤って踏込んだシカに破壊された。実用化には至らなかつたが、シカの生態に迫ることができた。

